

2025 年 10 月

ジェイズ・コミュニケーション株式会社

## サプライチェーンリスク管理の「Black Kite プラットフォーム」の取扱いを開始

ジェイズ・コミュニケーション株式会社（以下 ジェイズ・コミュニケーション、本社：東京都中央区新川、代表取締役社長：愛須 康之）は、Black Kite（正式名称：NormShield 社、本社：米国ボストン）が提供する「Black Kite プラットフォーム」を 2025 年 10 月より取扱いを開始しました。

現代のビジネスは数百～数千の取引先、クラウドサービス、サードパーティソフトウェアに依存しており、こうしたエコシステムは効率と拡張性を高める一方で、サイバー攻撃の対象領域を拡大させています。取引先のソフトウェアに脆弱性がある場合、その影響は瞬く間に複数の組織へ波及する可能性があり、サプライチェーンリスク管理は、今日のサイバーセキュリティにおいて最も困難な課題の 1 つとなっています。

企業が自社のセキュリティを直接管理できるのに対し、サプライチェーンリスク管理では、外部の取引先に対する直接的な制御が難しく、リスクの把握と影響の最小化が求められます。

Black Kite プラットフォームは、攻撃者の視点からサイバーリスクを継続的に監視する SaaS 型のサービスです。企業は、取引先やサードパーティソフトウェアとの安全な連携が可能かどうかを、非侵入的な分析により迅速かつ簡易に把握できます。技術・財務・コンプライアンスの 3 カテゴリーでリスクをスコアリングし、従来数週間かかっていた評価を数分に短縮します。製造業や重要インフラなど、サプライチェーンリスクの高い業界において、Black Kite プラットフォームは取引先のセキュリティ状況を継続的にモニタリングし、サイバーリスクの低減に貢献します。

### ■ Black Kite プラットフォームの特長

- ・ 3400 万社のデータを収集し NIST と MITRE に規定された 20 カテゴリー、500 項目の検査を実施  
侵害された認証情報、設定ミス、重大な脆弱性等を検出して 48-72 時間以内にフォーカスタグとして通知します。
- ・ 攻撃者が実際に利用する 30 の TTP (Tactics、Techniques、Procedures) をモデリング  
収集データからランサムウェア指数（ランサムウェアによる攻撃リスクの高さ）を算出します。
- ・ AI による企業のセキュリティ規定の取込みとギャップ分析  
CMMC、NIST 800-171、CIS、ISM などの基準とのギャップを分析して、コンプライアンス準拠状況の調査を大幅に簡略化します。企業・業界独自のセキュリティ基準にも対応しています。
- ・ 2 次ベンダー、3 次ベンダーのサイバーリスクも可視化  
サプライチェーンに大きな影響を与える可能性のある取引先、サプライヤーを特定します。また、取引先とのサイバーリスク状況の共有が可能です。

### ■ Black Kite プラットフォーム提供形態・開始時期

提供形態：SaaS

開始時期：2025 年 10 月

ジェイズ・コミュニケーションは、Black Kite プラットフォームを今後 3 年間で 20 顧客へ販売し、3 年後の年間売上 5 億円を見込んでいます。

【Black Kite プラットフォーム Web ページ】

<https://jscom.jp/product/blackkite/>

## **Black Kite について**

Black Kite は、サプライチェーンリスク管理に特化した企業です。ハッカーの攻撃手法に対抗する観点から構築されており、高精度かつ包括的なサイバーインテリジェンスを活用し、サイバーエコシステム全体の強化に注力しています。

## **ジェイズ・コミュニケーションについて**

ネットワークセキュリティ、ネットワークインフラ技術に特化したセグエグループ株式会社の中核企業です。ネットワークセキュリティに係るディストリビューション事業、インテグレーション事業、サービス事業を展開しています。

## **【Black Kite 製品に関するお問い合わせ先】**

ジェイズ・コミュニケーション株式会社

セキュリティ営業推進部 Black Kite 担当

Mail : [sec-promo@jscom.co.jp](mailto:sec-promo@jscom.co.jp)

※本資料に掲載されている会社名および商品またはサービスなどの名称は、各社の商標または登録商標です。